

大会長挨拶

このたび第35回日本アフェレシス学会学術大会を平成26年9月26日（金）～28日（日）、京王プラザホテル（東京・新宿区）にて開催できますこと、たいへん光栄に存じております。

この学術大会は、アフェレシス治療領域で活躍する医師、臨床工学技士などの医療従事者ならびに工学研究者や企業関係者の学術交流と親睦をかねて年1回開催するもので、難病や難治性病態の治療に対して医工学領域で培われたアフェレシス技術をいかにして治療へ応用させていくか、またその臨床医学的な効果や問題点はどうかなどについて議論することを目的としております。

第35回学術大会は会員間の学術交流はもちろんのこと、とくに若手医師や臨床工学技士などに発表の場を多く提供したいと考えました。大会のテーマは「アフェレシス100年：その歴史を振り返り、将来を展望する。」としました。Abel JJがイヌを用いたアフェレシス実験の結果を論文発表してから丁度100年目にあたる2014年、アフェレシス技術が開発された経緯を振り返り、学会の新しい方向性を見いだせるような大会にしたいと考えております。

具体的には、大会テーマと同じ「アフェレシス100年：その歴史を振り返り、将来を展望する。」という特別企画を設定し、本学会の黎明期からご活躍された先生方に学会発足の経緯、アフェレシス技術創出の背景などをお話しいただき、今後学会として取り組むべき課題や方向性などについて会員とともに熱い議論を交わせればと考えております。

一般演題につきましては、お陰様で会員の皆様から多数の応募があり107題をご発表いただくことになりました。これも皆様のご協力のお陰と感謝申し上げます。上記趣旨の下、熱心な討論がなされることを期待しております。

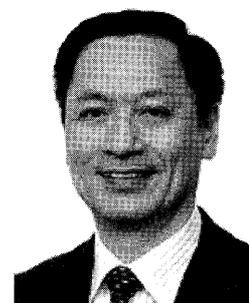
特別講演には「新規アフェレシス治療の薬事承認への挑戦（心不全アフェレシス治療）」というタイトルで北里研究所病院循環器内科の馬場彰泰先生にお願いしました。今後アフェレシスの新しい適応が期待される領域の最前線のお話が聞けるものと期待しております。また千葉大学大学院工学研究科の斎藤恭一先生に「機能性高分子材料のアフェレシスへの可能性」というタイトルで特別講演をお願いしました。これからのアフェレシスへの応用が期待される新しい機能性高分子材料についてご講演をいただきます。

教育講演としては国立循環器病センター研究所の斯波真理子先生に「脂質異常症とアフェレシス」を、秋田県赤十字血液センターの面川 進先生に「輸血領域におけるアフェレシス技術」を、東京女子医科大学の山本健一郎先生に「血液浄化膜の表面構造と透過性」を、それぞれ基礎的な内容を中心にご講演いただきます。

また私からは僭越ながら「アフェレシスの基礎とこれから求められる技術」として大会長講演をさせていただきます。大学恩師であられる早稲田大学名誉教授 酒井 清孝先生に司会を務めていただくことは私に取りまして望外な喜びであり、またよい思い出になると思います。

その他、シンポジウム7セッション、ワークショップ7セッション、マニュアルレクチャー3題、Asian session 2セッション、技術シンポジウム1セッションを企画することができました。また、例年通り技術講習会を松金 隆夫技術委員長のご企画の下、開催致します。

是非とも、第35回日本アフェレシス学会学術大会に多数のご参加をお待ち申し上げます。



第35回日本アフェレシス学会学術大会
大会長 峰島 三千男
(東京女子医科大学臨床工学科 教授)